

やまなし気候変動適応センター一通信 第2号

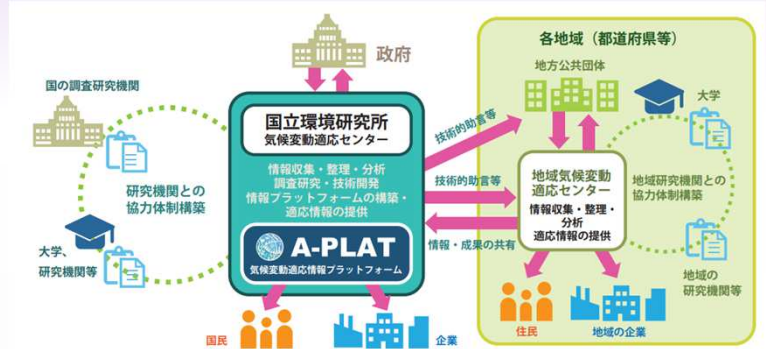
「A-PLAT」について

「A-PLAT」（気候変動適応情報プラットフォーム）は、気候変動影響や適応策に関する科学的知見や適応に向けた様々な取り組みなどの情報を分かりやすく発信するための、国立環境研究所気候変動適応センターが立ち上げた情報基盤です。

詳細はA-PLATのホームページをご覧ください。

A-PLATのホームページ ↓↓

<https://adaptation-platform.nies.go.jp>



出展：「気候変動適応情報プラットフォーム（A-PLAT）」

A-PLAT内のコンテンツ例

みんなの適応 A-PLAT+
気候変動適応のことを学べる！
暑さ指数をチェック！

スマホでお手軽に確認することができるお役立ちアプリです。

↓ アプリのダウンロードはこちらから（無料） ↓



A-PLAT KIDS
楽しく学ぼう
A-PLAT KIDS エー・プラット・キッズ
できおうさく
こんにちは、適応策。
(小学校4年生以上向け)

気候変動適応に関する子供向けサイトです。子供だけでなく大人も楽しく学べます。みんなでいっしょに楽しく学びましょう。

<https://adaptation-platform.nies.go.jp/everyone/school/index.html>

大雪への備えについて

平成26年2月、急速に発達した低気圧の影響で、山梨県は記録的な大雪に見舞われました。

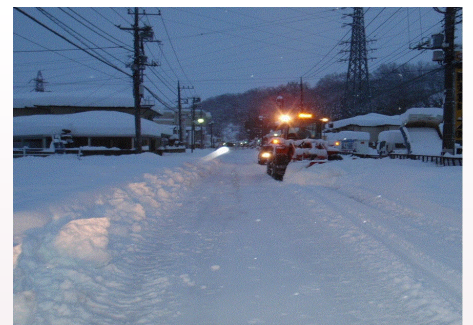
14日未明に降り始めた雪は、翌15日午前まで降り続け、最大積雪量は甲府で114cm、河口湖で143cmとなり、観測史上最多を記録しました。

各地の道路で車が立ち往生し、多くの家庭などで停電が発生したり、農業用ハウスも積雪に耐えきれず倒壊するなど、県民生活に深刻な影響を及ぼしました。

地球温暖化の影響で、一晩で1mぐらい積もるような「ドカ雪」が増えてきていると言われています。

気象庁は、関東甲信地方のこの冬の予想について、「ラニーニャ現象の影響で、寒気の影響を受けやすいため、気温は平年並か低い。」と発表しており、日頃から大雪に備えておくことが大切となります。

平成26年2月大雪時_県内の様子



気象庁「今後の雪」

令和3年11月から、気象庁ホームページで「今後の雪」という情報コンテンツが始まりました。

過去24時間分の積雪の深さと降雪量に加え、6時間先までの予報を一体的に確認できます！

「今後の雪」はこちらから ↓↓

<https://www.jma.go.jp/bosai/snow/>



事前に備えておきたい対策グッズ

防寒グッズ

防寒着、アルミシート、カイロなど

除雪用具

スコップ等
できれば軽い材質のもの

食料品・飲料水

家族分を最低3日分

ラジオ・バッテリー

手回し、電池式、ソーラー式など

懐中電灯簡易照明

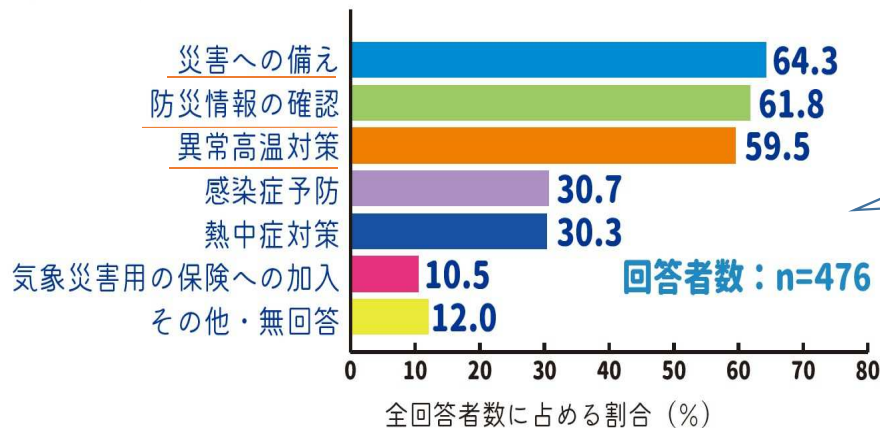
LED、ランタンなど

- ・雪が降ってからでは遅いこともあるので、早めの準備を。
- ・車で立ち往生の可能性もあるため、車内にも備えを。

気候変動の影響及び適応策についてのアンケート調査結果について

県では、県民の方を対象に、身の回りにおける「気候変動の影響」や「適応策」に関する意識・考え方を把握するためのアンケート調査を、令和3年9月～10月に実施し、476名の方から回答をいただきました。

現在、調査結果をとりまとめているところですが、今回は調査結果の中から、「気候変動への対策について、日頃から取り組んでいる、またはこれまでに取り組んだことがあるもの」についてご紹介します。



半数以上の方が、災害への備え、防災情報の確認、異常高温対策に取り組んでいる（またはこれまでに取り組んだことがある）と回答しています。

アンケート調査結果は、やまなし気候変動適応センターホームページに掲載予定ですのでぜひご覧下さい。

コラム ～県試験研究機関研究員の方々より～

当センターでは、県試験研究機関（9機関）を「連携機関」とし、協力連携して業務を実施しています。ここでは、各研究機関の研究員の方々が日頃感じている気候変動に関する事項についてのコラムを順次掲載していきます。

第1回目は、富士山科学研究所 自然環境科 安田泰輔 主任研究員から寄稿いただきました。

標高2000mのススキ

ススキが繁茂する草地では秋に銀色の美しい景観が広がります。ススキはイネ科の多年生草本で日本在来の植物です。古くは家畜の飼料や茅葺屋根の材として使われ、日本各地に草地環境がありました。富士北麓は今でも森林が多いですが、約120年前までは広大な草地が広がっていたことが知られています。

草地は人為的な管理によって維持される生態系です。樹木の生長を抑制し、ススキなどの有用な草本が生育できるように火入れや刈取り、放牧といった管理を行ってきました。草地は顕著に減少した生態系の1つですが、ススキが重要な材であった時代は全国的に火入れが行われ、草地環境が維持されていたのでしょう。

ススキは草地の代表的な植物で一面のススキ野原として見られるのは高くても標高1600mぐらいまでです。しかし、日当たりが良い道沿いを観察していくと、標高2020mの富士山四合目大沢駐車場付近まで点々と生育しています。秋に美しい花を咲かせるススキですが、観察を続けている限り、この高標高に生育するススキは未だ開花したことはありません。秋に花をつけないのです。

植物は気温や日光などの変化を鋭敏に感じ取って、成長とともに芽吹きや開花を行います。温暖な環境を好むススキにとって、現在の標高2000mは冷涼な環境のために十分な成長ができず、開花に至らないと考えられます。しかし、最近の報告では、富士山（山頂）の年平均気温は100年で1.2℃上昇（静岡地方气象台）しており、この温暖化傾向が続けば、将来、標高2000mでもススキが開花するかもしれません。

富士山の生態系は冷涼な環境の下で成立してきた生態系であり、温暖な環境になれば大きく変化してしまうと予想されます。生態系の状態や変化は、私たち人間社会と自然環境が持続可能な関係なのか？を知るための重要な情報です。標高2000mのススキの開花はそれを教えてくれるシグナルとなるでしょう。

やまなし気候変動適応センター

事務局：山梨県環境・エネルギー部環境・エネルギー政策課

電話：055-223-1506 F A X：055-223-1636 メール：yccca@pref.yamanashi.lg.jp

H P：<https://www.pref.yamanashi.jp/kankyo-ene/trkioucentar/top.html>